

2021年度活動概要

リーディング研究会

本研究会は言語処理のプロセスに着目しながら、日本人EFL学習者の読解システムについて理解を深めること、そしてL2の読みの諸理論に基づいた効果的なリーディング指導を探求することを目的として活動しています。特に、処理の自動化、読みの流暢性を主なテーマとして、その観点からL2読解プロセスの詳細を掘り下げるだけでなく、シャドーイング・音読の流暢性への効果、効率向上の練習、多読の効果などを含めてリーディング授業の実践面に関わるテーマに関連した研究も重要視しています。

本年度も、実証・実践研究発表と輪読の二本立てを原則として毎月1回研究会を開催し、これらの目的達成のために活動してきました。本年度は、昨年度からの Teaching and Testing L2 Interactional Competence (2019) の輪読を終え、現在は Schwieter and Benati (eds.) (2019) The Cambridge Handbook of Language Learning の輪読を月1回行っております。発表後の議論や意見交換を通して、専門分野に関するお互いの知見を深めることができました。会員による研究発表も輪読に続いて毎回行い、活発な意見交換を通して、参加者全員にとって新たな研究視点の発見につながったものと思われまます。輪読と研究発表は11月に一度だけ対面とオンラインのハイブリッドの形で行いましたが、再びまん延防止が続き、それ以降はZoomによる開催となりました。しかしながら、絶やすことなく継続できましたので2021年度の活動は成功裡に終わったと考えます。最後の3月の例会では、アメリカ在住のバトラー後藤裕子先生とオンラインでのご講演が実現し、多くの学びを得る機会が持てました。本研究会メンバーが普段行っている研究の枠組みを超えた、異なった視点から様々な活発な質疑応答がなされ、大変示唆に富む勉強会となりました。今後もさらに活動の幅を広げて行きたいと考えています。